

稲作情報 No.5

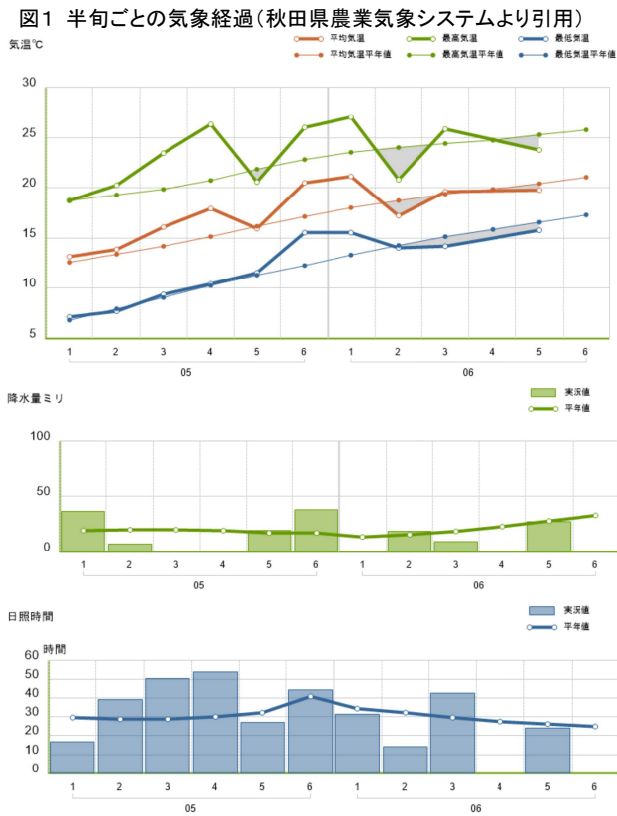
発行日: 令和8年6月30日
発行: 仙北地域振興局農林部農業振興普及課

～茎数はほ場間差が大きい～

生育状況にあわせた水管理で茎数を確保しましょう！

1 気象経過と今後の気象予報

これまでの気象経過(アメダス大曲)



向こう1か月の気象予報(6/27～7/26)

- ・仙台管区气象台より令和8年6月25日に発表された1か月予報によると、向こう1か月の気温は高くなる見込みです。
- ・平均気温は高い確率が50%で、週別の気温は1週目(6/27～7/3)は高い確率が40%、2週目(7/4～7/10)は高い確率が50%、3～4週目(7/11～7/24)は高い確率が50%です。
- ・降水量は少ない確率が40%、平年並の確率は30%です。

図2 東北地方 1か月予報(出典: 気象庁HP)

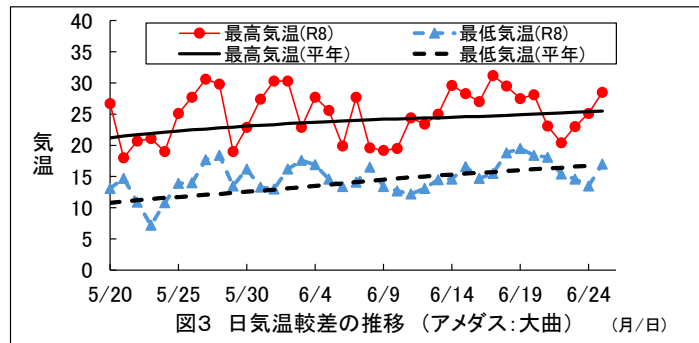
		気温、降水量、日照時間の各範囲の確率 (%)			
気温	東北日本海側	向こう1か月 06/27～07/26	20	30	50
	1週目	06/27～07/03	20	40	40
		07/04～07/10	20	30	50
		07/11～07/24	20	30	50
	東北太平洋側	向こう1か月 06/27～07/26	20	30	50
		06/27～07/03	20	50	30
07/04～07/10		20	30	50	
降水量	東北日本海側	向こう1か月 06/27～07/26	40	30	30
	東北太平洋側	向こう1か月 06/27～07/26	30	40	30
日照時間	東北日本海側	向こう1か月 06/27～07/26	30	30	40
	東北太平洋側	向こう1か月 06/27～07/26	30	40	30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 生育概況

6月25日の定点調査結果(あきたこまち、10地点平均)は、草丈は34.6cm(平年比96%)で平年よりやや短く、茎数は407本/m²(平年比101%)で平年並、葉数は9.0葉(平年差+0.4葉)で平年よりやや多くなりました。葉色(SPAD値)は43.4(平年比98%)で平年並でした。

6月中旬以降、気温の日較差が大きな日が続いたことで分けつの発生は促進されたと考えられます(図3)。また、田植えが遅かった地点では茎数が少ない傾向となっており、茎数の確保状況はほ場間差が大きい状況です。



3 当面の技術対策

1. 有効茎決定期(6月下旬)以降の水管理

本年は田植え時期の早晩により、茎数のほ場間差が大きくなっています。

ほ場ごとに生育状況を確認して、水管理方法や中干しの開始時期を判断しましょう。

- ① 県南部のあきたこまち(目標収量570kg/10a、中苗)の目標穂数は415本/m²(70株/坪植えの場合は1株当たりで約20本)です。
- ② **目標茎数を確保したほ場**では、中干しにより分けつの発生を抑制します。中干しの期間は、7~10日程度を目安とし、田面に亀裂が1~2cm入り、足跡が付く程度とします。
中干しの前に**深水管理**をする場合は、8.5葉期以降に1週間程度水深15cmを保ち、その後は中干しに入ります。
- ③ **目標茎数を確保できていないほ場**では、浅水管理で水温と地温を高め、分けつの発生を促進してください。茎数が十分に確保できない場合は中干しの開始を遅らせるとともに、強い中干しは行わないようにしてください。
- ④ 溝切りはその後の水管理や秋作業の効率化につながるため、中干しに合わせて積極的に実施しましょう。また、入排水をスムーズにするため溝の交差部分と水尻は必ず繋ぎましょう。
- ⑤ 幼穂形成期(7月15日頃)に土壤水分が不足すると1穂粒数の減少を招くため、中干しは幼穂形成期前には必ず終了してください。また、低温が予想される場合には幼穂形成期に水深10cm程度の深水にすることで幼穂を保護します。
- ⑥ 中干し後は間断かん水を基本としますが、用水が不足している地域では溝切りの溝を活用しながらほ場内に水分を回すなどして、効率的な入水を心がけましょう。
また、減数分裂期頃は低温に弱い生育ステージとなるため、気象情報に留意しながら、低温時は深水(水深15cm以上)にして保温してください。

2. カドミウム汚染米対策として湛水管理を徹底しましょう。

カドミウム濃度が0.4ppmを超える米を流通させると「食品衛生法違反」となります。

カドミウム汚染米が発生する恐れがある地域では、「あきたこまちR」以外の品種ではこれまでと同様に**7月中旬~8月下旬(7月15日~8月25日頃)までの出穂前3週間、出穂後3週間の計6週間は、湛水管理を必ず実施しましょう。**

3. 葉いもちの発生に注意

BLASTAM法による感染好適判定では、アメダス大曲で6月22～23日に感染に好適な気象が観測されました。感染苗のほ場への持ち込みや発病している余り苗等の感染源が付近にある場合は、発病に注意が必要です。

梅雨に入り、感染に好適な気象が続くと葉いもちの多発につながることから、ほ場巡回により本田における発病状況を確認し、早期発見に努めてください。

○これまでに葉いもち防除剤を使用していない場合

直ちにオリゼメート粒剤を10a当たり2kg散布します。

○余り苗や感染苗の持ち込みからの伝染を確認した場合

直ちにブラシン剤またはノンブラス剤の茎葉散布を行います。その後、必要に応じてビーム剤を追加散布します。

ラブサイド・ブラシン等に含まれるフサライド剤、ビーム・ノンブラス等に含まれるトリシクラゾール剤の本田での総使用回数はそれぞれ3回以内です。総使用回数を超えないよう計画的に使用しましょう。

4. 斑点米カメムシ類の繁殖を抑える雑草管理

令和8年6月22日に秋田県病害虫防除所が発表した防除対策情報第5号によると、**イネ科雑草が出穂している畦畔で斑点米カメムシ類が多い**状況です。

草刈りは出穂の15～10日前までに、農道や畦畔だけでなく休耕田や水田周辺雑草地等の繁殖地を対象に、できるだけ地域で一斉に行い、密度低下を図りましょう。

主要種であるアカスジカスミカメは、ホタルイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエの穂に誘引され増殖するため注意が必要です。本年は水田内雑草の生育が早いため、残草が多い場合は、発生草種や生育程度に合わせた中・後期除草剤を散布し、水田内の雑草に穂をつけさせない管理を徹底しましょう。

5. 熱中症に注意しましょう。

本格的に梅雨に突入し、高温多湿の日が続くことが予想されます。同じ気温でも湿度の高い日の方が熱中症になりやすいとされていますので、こまめな水分・塩分補給を心掛け、熱中症を予防しましょう。

～秋田米栽培情報発信LINE始めました！～
水稻栽培に関する情報を発信しています。

秋田県農林水産部水田総合利用課

<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/suiden>



友達追加は
こちらから